

## 平成30年 第2回伊賀市総合教育会議 議事録

1. 日 時 : 平成31年2月20日(水曜日) 午前10時10分～

2. 場 所 : 桃青の丘幼稚園 ひばりルーム(多目的ホール)

3. 出席者 : 岡本市長、  
笹原教育長、谷本委員、中委員、長谷委員、内藤委員、

宮崎企画振興部長、百田財務部長、服部農林振興部長、  
中出保育幼稚園課長、谷口副教育長、中林次長、谷口教育総務課長、  
清水生涯学習課長、林崎学校教育課長、笠井文化財課長、  
中岡上野図書館長、山本桃青の丘幼稚園長  
(事務局) 中副参事、児玉主査

### 4. 教育会議

《1》幼稚園(幼児教育)授業の参観(10:10～10:50) 桃青の丘幼稚園(各クラス)

《2》協議・調整事項(10:50～12:15)

- ・保育園、幼稚園教育と小学校教育との連携について
- ・伝統的工芸技術の保存継承について(伊賀焼の技術保存継承)

《3》その他

### 副教育長

皆様方には、大変お忙しい中集まりいただき、ありがとうございます。

前回は、小学校の英語教育ということで見ていただきながら、課題について市長さんはじめ教育委員さん方に深めていただきました。

今回は、幼児教育、それから小学校の連携ということで見ていただいて、更には伊賀焼の技術伝承についてという、この二つのテーマについて進めさせていただきたいというふうに思っております。

教育会議の場合、見て頂くという事はないと思うのですが、また、感想もいただきながら、お願いいたしたいと思います。

先ず、最初に市長さんからよろしくお願いいたします。

### 市長

皆さん、改めましておはようございます。

園長先生にご案内いただいて3歳児から5歳児について、つぶさに拝見いたしました。

ここにおられる大半のみなさんはお子さん、お孫さんとか沢山おられるので、見慣れた風景かと思いますが、私にはそういう世界には縁がないので、改めて3歳児はこういう事なのか、4歳児はこうなるのか、5歳児はしっかりとしてきたな、社会性が出てくるのだなというのを感じさせてもらいました。

3歳児の課題の中では、家庭で基本的な生活習慣が身につくという外に出てくるというのが難しいという状況を聞いて、これは子どもだけではなくて、親世代のケアというものがこれからも必要なのかなというふうに少し危機感を覚えたりしました。

しかし、ご努力をいただいております。おむつも外れないような子が1年経つかそれくらいで、何とかプールにも入れるようにして頂いたり、あるいは、鬼ごっこで自分の役割が分るようになる、あるいは、卒園を控えて幼、小連携といいますか、つなぎのカリキュラムを盛り込んでいただいているな、またそういう事が必要なのだろうな、という事を身をもって実感させていただきました。

伊賀市では子どもが宝物というわけでありませぬけれども、しっかりと色々な面からケアをしていく、またその社会的状況から保護者もケアしていくという事も含め勉強させていただきます。

ありがとうございました。

今日はまた、二つの項目がありまして、幼児教育と保幼小連携と、伝統的工芸技術の保存継承についてということで、忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思います。よろしく願います。

#### 副教育長

ありがとうございます。

園長から園の事についてお話していただいて、その後委員の皆さんから感想なり出して頂きながら園の課題について深めさせて頂きたいと思います。

#### 園長（桃青の丘幼稚園長）

資料により状況説明。

#### 副教育長

資料にも課題が挙げられていますが、幼稚園の無償化もございますので、その辺の課題もあります。委員さん方、見ていただいて、感想からお出しただいて、ご質問やアドバイスがありましたらおうかがいしたいと思います。

#### 教育委員

保育料無償化というのは、保育園の話で、幼稚園の話ではないのですか。

副教育長

幼児教育の無償化になりますので、幼稚園、保育園も同じく10月から、無償化の予定になっております。

教育委員

そしたら何故、保育時間が保育園の方が長いからそちらへ行く方が多いという事ですか。幼稚園が減って来るという事ですか。

副教育長

それもございます。

園長

具体的には保護者の方が、1日フルタイムで働こうと思うと、保育園しか預かっただけなことになります。実は、うちの幼稚園では遠くは大山田、壬生野地区、柘植あたりからも、幼稚園教育を受けさせたいと思って来てくれている保護者の方もいらっしゃいます。

やはり、働きに行こうと思えばフルタイムになるので、幼稚園は、今、言わせていただいたように来年から、4時までとさせていただくんですけども、そうするとパートでしか働けない。フルタイムだと、保育所だと延長で最長6時までという預りもあるので、フルタイムで働こうと思われる方はどうしても保育園へということになります。

副教育長

働く方のニーズというか、それの方がいいというものもあるので、幼稚園としては、2時まででもいいともちろん言ってくれますし、保育園の魅力もございますので、その魅力づくりも大事だなと思います。

教育委員

今まで2時までだったという事で、それが3時となり、4時になりという事で、先生方のご負担も、今、各クラス見させてもらったら先生1人で見てくれていると事で、小学校とか見させてもらっても先生が2人ついていて、補助に入っているという形で、見させてもらっているんですけども、小さなお子さんを1人で。結構イメージとしては、まとまって子どもたちが先生について行っているというのは、本当に素晴らしいなと思わせてもらっていたんですけども、そこまでなるまでには先生のご負担もあるだろうし、長くなる事によっても先生方のご負担もあるかなというふうに思うんですけども、そこら辺はどうなのでしょう

園長

おっしゃっていただく通りで、2時まででは教育活動です。2時以降は、保育ということ

でお預かりする。いわゆるお預かりをしているだけなので、考えてみますと教諭と教員免許のあるものと、免許がないけれどもうちはサポーターがおります。そういうサポーターと組んで2人体制で、それも2時間となるとかなり厳しいので、2時から3時までを教員とサポーター、次の3時から4時までが、別の教諭とサポーターというコンビで、なんとか保育をさせていただこうと思っております。

教育委員

人員の確保はされているのでしょうか。

園長

人員は増やしていただけないようなので。

保育幼稚園課

そのことについてよろしいでしょうか。

今、桃青の丘幼稚園でしていただいております預かり保育につきましては、事業化していない預かり保育という事で、料金はおやつ代程度のお金をもらっていただいて、していただいているものでして、もし事業として預かり保育をするのでありましたら、市の方の要項を定めて時間も、今の4時までとなっているのですけれども、正式な事業で行いますと、夕方5時までとか、長期休暇中、夏休みとか冬休みも、預からせていただくという形になりますので、そこまでするとなりますと、それこそ今までの人員よりも形の方も変わってきますので、実際、事業として行うのについては、まだ幼稚園さんとの協議が必要となってきます。

今、幼稚園さんの方で、市の事業ではないんですけれども、保護者さんに対するサービスの一環としていただいている事業ですので、人員配置の方が中々出来ないという形になっております。

副教育長

今、いくら100円ですか。

園長

50円。

副教育長

1時間50円というようなおやつ代を子どもからいただきながら・・・。

園長

その事業じゃないので、お金もないのでサービスなので、来てもらうのに料金を1時間100円にあげさせて、いただこうかなと思っているんですけれども、今50円なので・・・。

企画振興部

今何人おられるのですか。預かり保育の利用者は。

園長

一日大体 20 人くらいですかね。

教育委員

その方たちのニーズっていうのは、やっぱり 3 時までじゃなくて 4 時、5 時と延ばしてほしいということですかね。

園長

全部が全部ではございません。例えば、よく聞かれるのが、パートに出られた時に、3 時までが結構多い。そうすると 3 時までだと 3 時に保育園に来られない、だから、同じパートでも、2 時までっていうのは少なく、3 時までだとあるのでというお声を聞かせていただきます。お母さん方は、やっぱり子どもたちが帰って来る時には、居てやりたい、子どもとやっぱり接して子育てをしたいと思っちゃる方がたくさんいらっしゃって、昼間がちょっとと思うのでどうしても、パートにと思うとそういう事があって、3 時はちょっとキツイな、とお声をいただいたので 4 時までとっております。

企画振興部

来年度 3 歳児のクラスで定員割れして、今、40 人 2 クラス、何人の方法を結局取るのですか？

園長

今年は 32 名です。

企画振興部

32 名で 8 名の定員が割れたということですか

副教育長

8 名は大きいですね

企画振興部

開園当時は 4 歳児 3 クラス、5 歳児 3 クラスだったわけですがけれども、徐々に減ってきました。それにはやはりその保護者の夕方まで、保育園をしてほしいっていうニーズと、少子化と両方が被ってきた結果が、こういう風になってきていると考えられるのですか。

## 園長

3歳児は条例で、決まっておりますが40名以上の定員でそこで溢れた方は、やっぱり保育園に行きますよね。そうすると新たに4歳児は定員90人なんですけれども、40人のままあがってくる子が多くて、やっぱり4歳児で定員から外れたら、よその保育園に行ってしまうと新たに來る子が少なくなる、そういう事もあります。通ってれば良かったんですけども3歳児に入れなかったからとおっしゃっていただいております。

## 企画振興部

今回から抽選がいらなくなった。

## 園長

初めてなので。

## 教育委員

32名、そうするとまたこの32名が4歳児、5歳児になっていくわけですから、幼稚園の存続にもかなり影響を及ぼしてくるわけですよ。従って、そういう預り保育が事業化されてない状況だったんですけども、ここらはどうなんですかね。

## 副教育長

保育幼稚園課で調査して頂くなかで今後どうしていくかとなるので。

## 保育幼稚園課

子ども子育て支援計画というのが、今、伊賀市の方であるんですけども、それが、ちょうど来年で第2次計画を、たてなければいけないという事で、去年の暮れから今年の1月の始めにかけて、就学前の子どもさんを持つ保護者方、あと、これは全体になりますので、小学校の保護者の方、中学校の保護者の方に対して、それぞれアンケートをさせていただいております。

その中で就学前の子どもさんを持つ保護者の方に対しては、どういった保育ニーズ、例えば、幼稚園ニーズ、例えば、長期で預かっていただいた方がいいのか、どういった幼稚園形態がいいのかという、そういったニーズ調査を、今させていただきまして、今集計させていただいている所です。その結果につきましても、教育委員会さんもお参加いただいているんですけども、庁内の少子化対策推進委員会のほうへも結果の方は、お知らせさせていただく予定ではおりますが、やはり、今は働いている方が多いという事で、0歳から預けられる方もいらっしゃいます。

平成27年から子ども子育て支援制度というのが始まりまして、幼児保育、就学前の子どもさんの保育とか教育につきましても、給付制度という形で、事前に市の方でどうい

った保育ニーズがあるのかという事で、給付の認定を受けていただく事になります。直接、先に申し込むのではなくて、まずは、3歳から5歳で幼稚園に行っていた方については1号給付、3歳以上で働いてくれて、保育園がいいという方は、2号給付、3歳未満の子どもさんで、両親の方が働いているので、保育が必要という方は、3号給付という形で給付証をまずは取っていただいて、それぞれ保育所に、申し込んでいただくというような制度に変わっておりますので、そういったところもまた、影響してくるのかなと思います。

#### 副教育長

ニーズを調査して、この延長保育を事業化していく。無償になりますが延長していきながら、保育の時間を長くしていくというような事も考えて行かないと、なかなか少子化で難しいのかなと思います。

#### 企画振興部

早く制度化してあげないと、今は違法状態の預かり保育になっているとゆう形ですよ。だから、50円もらうというのも根拠も何もないし、市の職員をその時間引っ張って使う根拠も何もないし、何とかしてあげないと、ニーズに対応するのはわかりますけれども、早い段階で。

#### 副教育長

そういう課題がですね、これから保育幼稚園課と教育委員会でお話しをして、その辺を進めていかないといけない課題があるのかなと思います。

この無償化、園児の減少について他にはございませんか。

#### 教育委員

3歳児を2クラスにすることは出来ないのでしょうか。多くなると大変なのはわかるのですけれども、30名、30名くらいの2クラスにするとか出来ないでしょうか。

募集することは出来ないのでしょうか。

#### 副教育長

今、募集しているところです。

#### 教育委員

40名募集って聞かせてもらったんですけども、今回はずっと入れるという事なのですけども、定員割れではないけれども、前から入れないから無理だとか、預ってくれないから無理だからということで、希望しない方が多分増えていると思うんですけども、枠を増やして時間も増えるというような。入れるというような通知があれば。

副教育長

お知らせをしてということですね。

教育委員

そうすればもっと預かっただけなんだと思うで、次の4歳児も5歳児も2クラスずつくらいでいけるのかなと、単純な考え方なんですけれども3歳児でとってもらえなかったら、保育園に入ってしまうと、次また幼稚園に申し込もうかという気持ちにならなくなってしまうのかなというような、子どもを大きくして来てそんな感じを思わせさせてさせていただきます。

市長

今、お話を聞いて一つ思ったのが、やはり幼稚園が幼稚園である意味合いが、もっとはっきりしなければいけないだろうな、幼稚園に行かなければいけない、行かさなければいけない。それは、何かって言うと幼小連携いとうことがありますがけれども、やはり3歳児から基本的な生活習慣が出来ない所から、生活習慣をつけ、体力をつけ、協調性、社会性もつけて、様々な知識も事前に与える事が出来て、スムーズに小学校に連携していくそれが幼稚園の求められるこれからの姿であるし、それがなければ保育園とあまり変わらない状態になってきて、じゃあ、こども園でいいんじゃないのって話になってくる訳ですし、やっぱり保育園とは違うあり方を望むという保護者の人がいるでしょうし、それをしっかり担保してあげる事が、特色を出すことになって定員割れどころか抽選で、という事の方がまだ潜在ニーズとしてですね多いというふうに思うわけで、そんな事をお考えになっていったらどうなのでしょう。

副教育長

今、市長さんがおっしゃっていただいたように、一つは少なくなるという問題と幼稚園の魅力化というところに、どうしていくかと。それで園長先生と私達と話しをするのは、例えば、小学校で英語をやっているればその辺の所も園で取り組みながら、うちはこの事が魅力なのですよ、基本的な事はやらなければいけませんけれども。更に魅力づくりをしていく必要があるのかなというような話しは、何回もさせてはいただきました。

市長

英語も出来るでしょうし、例えば、数を数えるとかそういう事も時計が読めるとか、計算が出来るとかそういう事もいいでしょうし、特色のあるカリキュラムをやっぱり作っていかないとかなといけないでしょうね。教育機関ですからね。

副教育長

今の園の保育の中身についてですね。

## 教育委員

子どもを幼稚園に通わせていたんですけども、そこでは、園は 2 時まででその後なんですけれども、クラブがあったりして、習字が習えないとか、保育園と違うものがある、魅力があるというので子どもを受験させて、その幼稚園に行かせたんですけども、後で色々な塾ではないんですけども、英語であったりとか、習字であったりだとか、ピアノであったり、そういうふうな後の活動があって、そのまま預かってもらって、その後、終わった頃に迎えに行く事がありましたので、市長さんが言われたように幼稚園としても時間が短くても、幼稚園に預けたい、ここで学ばせたいと思わせるような環境が保護者の方が求めるものかなと思います。

## 教育委員

伊賀市立であることが強みであるように、就学前の年長さんは小学校との関わりは、どんな事になっているのですか。

## 園長

今、一番近い所では西小学校と交流をしまして、年長になりますと、西小学校に行って、こういう勉強をするんだね、こういうふうにして机、椅子に座るんだね、という交流はやっています。年 1 回しかできてないんですけども。

他の学校へも行くお子さんが沢山いるので、正直、西小学校と交流できにくいなという所もあるんですけども、1 番近い所は西小学校との交流は、やっています。

## 教育委員

そういった所を少し色濃くされるとか、伊賀市立である強みを特色として、ひとつ活かされるのはいいかなと思うんですけども。

## 副教育長

教育委員会として、幼稚園だけではなくて、保育所、社会事業協会保育園の方も一緒になって、県としても学びを繋げていくという連携をしていかなければいけない。正直、小学校になってもなかなか座れない。今日のを見ていただいたら、あの子たちは小学校に行っても大丈夫なぐらいの状況ですけども、やはり人数が小学校よりやっぱり多くなる、多くなる中で落ち着かない子どもも出て来るという事ですね、なかなか繋がりが難しいという事で。

この中にも今、ここに 1 枚配らせていただいておりますが 5 歳児の 10 月頃から、例えば、手洗いうがいだとか、生活習慣を身に付ける必要な時、自分の意志で手洗いうがいなどが出来るという所を繋いでいく。一つずつの生活習慣の中です、幼稚園はここまでやしましょう、小学校は、ここを繋いでここからこの様にいきましょう。例えば、決まった時間にトイレに行けるのは、小学校だよ。としますと 1 月頃からそのような取り

組みをして、小学校に行った時に休み時間にトイレに行って、排泄をするというような事も含めてですね、繋いで行きましょうと。これは各保育所に行かせていただいて、このように繋がしていただいているような状態でございます。

それから今後ですね、各小学校から幼稚園、保育園に働きかけてそのプログラムをこの1枚の紙にまとめてですね、どこが今どう課題なのか、それを小学校でどう受けていくのか、というようなのを作れる様に進めていく流れをしていきたい。これは、今までもやってきましたけれどもそのような取り組みをやっていきたいと思います。

幼稚園の魅力作り、その辺についてはいかがでしょうか。

#### 教育委員

就園前の初めて、子どもさんを幼稚園や保育園に入れないといけないという、保護者の方が、幼稚園と保育園の違いもよくわかっていらっしやらないとか、その3年間とこの3年間で、小学生になった時までに義務教育の行事、環境そういうものを、体験していただくような就園前の方たちへのアプローチというのは、今はどうなっていますか。

#### 園長

現在の所は、それはPTA活動の中にありまして、未就園児の会というスクラップというのがございまして、年間6回色々アピールをしていただいていたと思います。

来年度からは、それをやっぱり内容について、もっと園が関わらないといけないという事で、3歳児と一緒に交流をして遊ぶ日、4歳児、5歳児それぞれ交流をしながら、幼稚園ってこんなに楽しいよ、また来ようね、っていう今まで保護者の方が中心になっていただいていた分をこちらが受け持って、保育の中で下の子と一緒に遊ぶという、幼稚園の魅力のアピールしていくようにしようと、来年度からはそういうふうに変えることにしました。

#### 教育委員

区別化、保育園と区別化をはっきりと出された保育園、幼稚園も名前が違うだけで子どもを預かってくれるという所だけでは意味がないですね。だから、幼稚園としての区別化、ここは、こういう風にやっていきますよっていうのをもっと、はっきりと表に出されて、やっていかれた方が分かりやすいですね。

#### 教育委員

伊賀市の特色というか、外国籍の方が多いので、小、中学校でも少し課題にもなっているとところもあるんですけども、この園では外国籍の子でコミュニケーションが取りにくいとか、カリキュラムに対応できないという子はいらっしやるのでしょうか。

#### 園長

現在の所は外国籍のお子さんは1人いらっしやいます。

来てくれていた時には、お母様も全然日本語が駄目で、もちろんお子さんも全然駄目で、お父さんだけが、コミュニケーションツールだったので、担任も辞書を使いながら、子どもとコミュニケーションを取って、ずっと市の方でも通訳を募集して頂いていたんですけど、見つからずに今、本当にいらっしゃらなくて、なんとか園でやり繰りをして1年間過ごしました。来年度また新たにまた次の1人増えることになっています。

#### 教育委員

今後、そういう子に対しての市の支援というのも考えておられますか。

#### 保育幼稚園課

外国人の子どもさんのサポートについては、今の園長が言っていましたように、募集はさせていただいたですけれども、なかなか通訳の方が見つからなかったんですが、2月から通訳の方ではないんですけど、その子どもさんにより沿って身振り手振りとかで、その子どもさんのコミュニケーションの支援をしていただく活動、教育活動サポーターの方を1名付けさせていただいております。

来年度も一応もちろん継続して通訳の方は探させていただくんですけども、もし見つからない場合は、また同じような形でその子により沿って支援して頂けるサポーターの方は確保していきたいと考えております。

#### 園長

今日その方は、ちょうどたまたま年長児に1人いますので、1人サポーターの方が付いていたと思うのですけれども、だいぶとなんとか出来るようになってきました。

#### 市長

多文化共生ということですから、色々な子どもたちが入って来る、それは、保育園も一緒ですけれども、3歳、4歳、5歳。5歳位になったらどうかわかりませんが、入ってきた当座ってというのは、日本語は多分分らなかったとしても、お腹が痛いとか、頭が痛いとか、熱があるとか、お腹空いたとか、痛いとかそういった簡単な言葉しか喋れないはずですから、滔々とその思いを語る事はないはずですから、保育園のお子さん達には、保育士さん達あるいは、幼稚園の教諭の皆さんがですね、簡単な言葉をしっかりと身に付けられたら、それでともかくは、お父さんがもうじき来るとか、お母さんもうじき来るから待とうね。簡単な事でね、おそらくコミュニケーションだったら、向こうの方が柔らかいですから、日本語をわかってきてくれると思うんで、その辺は基本的な生活習慣用語をですね、身に付けていくという事ことがですね、まず受け入れる側としては大事ななというふうに思います。

それと、幼稚園教育という言葉がありますよね、幼稚園っていうのは、要するにキンダーガーデンといいますけれども、プレスクールとしてもやっぱり誇りを持っていく事だと思います。

私はここで記憶させていただいている中、子どもたちの教育機関であるというんだけれども、寂しいな、なんでやろうと聞いたら思ったら、チャイムが鳴らないですよ。単元、時間割があるわけですよ、3歳の子、4歳の子、5歳の子、どの程度分かるか、わかりませんが、世の中はそういう仕組みによって、動いているんだって事を、鳴らしておいたら、分かる子は分かってくるわけですから、先程、黒板にひらがなをずっと書いていたら、分かる子は段々分かってきて書けるようになってくるわけですから。時間感覚っていうのも基本的な社会習慣ですから、そういうものによって世の中は、動いているんだっていう認識を作っていくのがいいのかなと思うので、その辺はどうですか。

園長

園ではチャイムではなくて、各教室に時計がありまして、時計にこの時になったら、この時までだよと、年少さんと桜マークの所迄は、お外に行っていてもいいですよ、このマークの所まではいいですよ。年長になると数字が、書いてあって6の所までは、お外で遊びましょうというふうに、チャイムではないんですけども、時計に印を貼ることによって、時間を区切って生活させています。

市長

つまりそれはね、この空間の中だけの話じゃないですか。だけどこの園庭を含めた3歳、4歳、5歳、皆がいる中で、共通にサインが出てるなって気が付ける事が大事やなって思いますが。

園長

確かに音楽でやる時もあるんですけども、この音楽が鳴ったら次の活動って言って。

市長

だから、条件付きみたいな。それがやっぱりプレスクールですね。

副教育長

園のいろいろな課題も今、話し合っていて、いろいろ見えてきて所もあるんですが、今日見ていただいて、その保育の状況としてご感想をそれぞれ出していただけたらと思うのですが。

教育委員

年長児さんの教室で感じた事は、先生がホワイトボードに字を書く中で子どもたちがそれを見ていると思うんですけど、もう少し大きいホワイトボードで大きい字を書いてそれを見るっていうのが、小学校1年生に繋がっていく最初の一步になるんじゃないか、字が小さい感じで、いろんな物をいっぱい貼っていただいて書くスペースが狭くなって

いるのがあると思うんですけども、せっかく字を書いて子どもたちがそれを見るという環境が出来ている中で、もう少し大きく字を書いて貰って子どもたちがそれを見るという環境もつくってやってもらえたらなと思います。

市長

先生が書いているけれども分からないかも分からんけど、書いているっていう感じがあるんですよ。

教育委員

メモっていう感じもあるんですよ。

子どもたちがそれを見てそれはこういう事なんだなと認識っていうのが、年長さんにはもしかしたら、ぼちぼちせっかくの機会なので大事なかなって思います。

園長

こちらの教師の意識の持ちようだと思います。また、職員にも話をしたいと思います。

副教育長

他の感想はよろしいですか

教育委員

保育園と幼稚園とで、どうしても幼稚園に預けて、子どもを時間が短くてもかまわないので預けたいと思ってもらえるような、そういうふうな幼稚園づくりというのを望みたいなと思います。

教育委員

小さい時、あまり覚えてはないんですけども、こんなにしっかりした場所、先生にしっかり教えてもらった覚えはあまり覚えはない気がするんで、引き続き学校の差別化とか魅力とかしていただいて頑張っていたきたいと思います。

教育委員

設備のことでグラウンドに出ました時に、何かへんな感じでこっちに水が流れて来るような気がして、雨降った時に、角度が向こうの方が高いのではないのですか。  
何か、この辺がベチャベチャになる感じがしたのですけれども。

園長

それは、子どもたちが水遊びをしょっちゅうしていて、砂場で水を使うものでどうしてもそうなるんです。

副教育長

前が、水で浸かるとかは無いですよ。

園長

無いです。

教育委員

ちょっと、それだけ気になって

教育委員

園長先生が、色々普段活動の話して下さった中で今日見せていただくと、凄くこんなにも年少、年中、年長と角度を変えて箇所を変えて、子どもたちに関わりを持っていただいているんだと改めて自分が子どもの時ですか、自分が保護者として関係をしていた時の事を振り返ると、そんな事には気が付いていなかったと改めて思いました。凄く印象に残ったのは、園長先生が1番最後にお帰りの時間にこういうふうになさっているんだと、保護者との子ども成長や喜びを分かち合う関係性づくりの為の努力これは凄く印象的でした。

お便りを地域に配って頂いているという、開かれた園という視点面でのやって頂いているのも凄く印象的でした。

見せていただいた中で、少し思ったことを一つだけ、今は、親を教育しないといけない時代だなというふうに、小、中学校を見せていただいても思うんですけども、子どもたちが凄くきちんと座って、次の子達を待っていたのが印象的でしたが、列に戻る際に、友達の中をかき分けて1番後ろに行く時に、人の前は通るものじゃなくて、人の後ろを通るものだ、前を通る時は少し会釈をするものだ、大人の所作のようですけども小さい時から教える。そういう、本当は家庭で教えるものですが、残念ながらなされていない子どもたちが多いので、そういった些細な事ですが、そういった声かけをしてやっていただければ大変ありがたいと思いました。

開かれた園という面においても特に言わせていただければ、例えば、小、中学校でやっています地域からの講師、おじいちゃんおばあちゃんですとか、そういった方を招いていただいて、園が先程申し上げたような、躰と称するような些細な教えを、子どもたちが守った際に、園以外の方たちに大いに褒めてやっていただいて、親や先生以外の人間関係を子どもたちに与えていっていただけたなら素晴らしいんじゃないかなというふうに思いました。

教育長

言いたい事を皆さんに言っていただいた気がするんですが、その話に行く前に通年を通して、何回か来させてもらって、1年前の子どもたちは、実はもっとガチャガチャしていました。それが本当にこの1年で、これだけしっかり子どもたちが先生の話の聞き

ているようになったというのは、見違えるように変わっていつている幼稚園だと思ひます。

それが、本来の幼稚園のあり方教育ってものを、教育活動をそこでしていく事がちゃんと出来ている園になってきているというのをもの見て本当に感心しました。

逆に言うと 1 年半年前は、どちらかという保育園と保育所の違いが、あまりわからないような感じを僕は受けたので、これは幼稚園なのになと思う事がいっぱいあったんですが、今日来て本当にちゃんとした幼稚園になっているなど。それと、幼稚園と保育所の違いってというのは、子どもたちに対する対応だけではなくて、保護者さんに対して、きっちりした伝達事項をして、それを保護者さんがきっちり受け取るという事が、本来の幼稚園のあり方であって、保育所はご両親が働いておられる関係もあって、なかなか子どもたちの事を時間に長い時間をお任せしている方との会話が出来ていないのが、保育所かなと思うと、やはり保育所側も管轄違いなので言っはいけないのかもしれないが、もっともっと保護者の信頼を、コミュニケーションを取っていかないといけないと、常日頃思っていたもので、幼稚園はそういう努力をやっぱり真っ先にして、保護者との信頼関係がやっぱり強いのが幼稚園のあり方であって、特色になっていくのではないかなと。僕はもう 1 つ思っていて、ずっと思っていて、言おうと思っていたのが、マナーを子どもたちに教えられるのが実は幼稚園なんじゃないかなマナーというのは、要は、挨拶それこそ何かを食べる時の食べ方、人と一緒に共同して何かをやる時に、ルールがあってこういう時は、こうするんだよ。後ろから回って、列に並ぶんだよという事を基本から教えられるのが、幼稚園じゃないのか。中々保育所では、難しいんじゃないのかなという気もしちゃうんで。

僕は日本の伝統と文化の有形な部分ではなくて無形な部分、挨拶の仕方、お箸の使い方っていうそういうものを、やっぱり 3 歳、4 歳、5 歳の間から教えると自然に、小学校に行っても出来るんじゃないか、本来は家庭でやらないといけなかった事が、中々家庭で出来ない、オシメを取る事を本来は家庭で、やらないといけないのに、今それを保育所とか幼稚園の先生が、オムツの外し方を教えている姿を見て、時代は変わったんだなと僕らの子育ての時代とも違う本当に親御さんって、今、本当にどうなんだろうっていう思いが若干ありまして、幼稚園のあり方として、区別化という事でいうとそういう無形のマナーとかも、教えておられると思うんですが、さらにもう少しきっちり、こうしようというのが、教育活動の中にあっていつて欲しいなと思ひました。

それと 1 つ質問です。

100 人を超えると、2%特別な能力を持った子どもたちが中に混じっている、その子達に対する教育みたいなのは。

これ出来ないと思ひていますが、敢えて聞かせていただきます。

## 園長

中にはとても虫、生き物に化して詳しい子がいます。

そういう子は、今の所出来ているのが、お部屋の中でその子の良さを発揮して、虫博士、

何々博士っていう事で、何でもその子に聞いていこうというスタンスは出来ているんですけども。お話を聞かせていただきながらそれを園全体に広めて、この子のコーナーを皆に発表していくとか、虫はこうなんだよと、その子に全員園児の前で発表させるとかそんなのもいいなと、今聞かせていただきながら思いました。

運動も確かに、凄く上手な子がいてその子は色々な場でみんなの前でやってみようかと言って、体操とやる事があるんですけどもそういう知的な部分というのは、まだちょっと欠けている部分があるので、また取り組みたいなと思いました。

## 教育長

本当に難しい、今の日本の教育のその空間内にいる、子どもたちを同じ行動をさせるという事が、基本ではあるというふうに思っていますけれども、余裕がない中でも、そういう子どもたちが、自信をもってこうやっていけてそれが伸びる方向にっていう、1人1人色々な特徴があるのがそこにきめ細かい教育をするに、もっと人をくれとおっしゃると思うんですが、中々出来ない中というのも先生の中に、そういう余裕を持って対応していただけたらなあというのが、別に幼稚園だけに限った事ではなくて、小学校、中学校でも、本当にその通りで、それに人力していかないといけないというふうに、自分にこれは言い聞かせてもいるんですけども、頑張っていたきたいと思っていますが、僕にとっては見違えるような幼稚園、本来の理想に近い幼稚園になりつつあるというふうに思っていますので、本日はありがとうございました。

## 市長

今、教育長が言ったのは、芭蕉の俳句で言うと 草いろいろおのおの花の手柄かな と個性を大事にする。もう一言、言うと誇れる桃青の丘幼稚園、選ばれる幼稚園桃青の丘幼稚園というのを、モットーにさせていただけたらと思います。

もう1つ質問ですけど。

今日は、頑張っていたいているなという印象で見せていただいたわけですけども、もう1つ私の母園あります、白鳳幼稚園っていうのがあるんですけども、そういう所とどう違ったり、一緒だったりどうなのですか

## 園長

交流が年に数回しかなくて、教育内容についての交流は実質ないです。

例えば、どういう事で悩んでいるかという話だったり、人権感覚についての教育のあり方についての交流はあるんですけども、教育内容そのものについてはなくて、昨日は、たまたまお見受けして、一緒にさせていただいたんですけども、公立である以上、白鳳さんは宗教的な事をおっしゃっていましたが、私どもは公立なので、広くどなたにも合うようにということで、私共は3歳児からきちんとカリキュラムを立てて、それに基づいて教育していくのが、ちょっと白鳳さんとは違うのかな、白鳳さんしかないことも多分沢山あろうかと思うんですけども、今もってはそこ、何が違うのかと

言われるとくらいかなと思います。

市長

どちらがいい悪いというわけではなくて、我々類団ですから同じような状態業種の人達がどんな事を思い、どんな事をしているのか、子どもたちがどういうふうに育っているのか、ということをやっぴりお互いに交流をするということが、いい結果を生むのではないのかなと思います。

園長

また、お互い交流させていただいて、教育内容についても一園しかないなので、学び合いたいなと思っております。  
ありがとうございます。

副教育長

いくつか課題が今出されました。  
実際は、保育幼稚園課で幼稚園の事をさせていただいていますので、教育委員会としては、教育内容の事は扱うんですが、延長の事などは保育幼稚園課で進めさせていただきます。また、こういう場にいる事ですので、相談させていただきながら進めさせていただくという事で終わらせていただきます。  
ありがとうございました。

時間が無くなってきましたので、伊賀焼について、深めながらとまではいかないと分かりませんが、先日ですね、教育委員会が備前市の備前焼の振興について視察に行っていました。

その時には、思った以上に備前焼がそんなに活発な状態ではなくって、それを振興として一応勉強になった部分はあるんですが、なかなか難しかったというような状況でした。今後、伊賀焼としてどのように保存継承していくのかということで、感想になるかもわかりませんが、お話をいただきたいと思います。

文化財課

資料により説明。

副教育長

伊賀市全体として、伊賀焼を指定するというのとちょっと違いがございまして、個人を指定するというのが備前焼であってその違いがあったということでございます。あまり時間もないですし、備前市を見られて伊賀焼を振興するという事についていかがでございましょうか。

## 教育委員

やっぱり、備前市のやり方としては、はっきり言って皆さんみて思うように町自体が、沈滞していますので、やはりそれを盛り上げるという感じで、やはりこういった事を決めたとするんですけども。

決め方にやっぱり僕は、おもしろいと思うのが、創作的な過去のを写して作っているだけではなくて創作的な活動、前に向かって新しい次元に進もうという人を選んでいくという所が、非常に面白いと思いました。

今までだったら、そういう物を決める場合に勲章的な意味が強くて、なんかご苦労様でしたという事で、与えていたと思うんですけど、やはりもし伊賀市がそういったことを導入するのであれば、わからないものを作っているけれども要するに前に向かって伊賀焼が進んでいける、そういう方向の人物というか、創作活動をしている人にいったら面白いと思えますけれどもねえ。

例えば、伊賀市の元永定正さんって絵描きさんがいますけど、彼の絵は、ほとんど昔は誰も流しただけの絵でしたので、こんなのは絵と違うでと。ところが、今は漫画の本じゃないけれども、幼稚園にも、もこもこ、ペケペケじゃないけれども本がありますよね、子どもたちもその本を見て読んでいます事になりますよね。30年前には彼の絵は、誰も認めていなかった。だけど、今の幼稚園の子どもさえ読んでいます。

だから、こういったものを選定するにあたってはひょっとしたら、わからないけれども創作的でもの凄く新しい事に進んでいる人なんかも。伊賀市は凄く、こんな人まで選んだという先駆けであって欲しいと思います。同じであつたら意味がないと思います。

## 教育委員

備前焼というと、全国的に有名で、有名ではあるんですけども、行かせてもらった感じはそんなにパツとしなかったの。

芸術は別で産業的にてみますと、陶器業界というのはいわゆる斜陽産業として今は見られています。その中で、どうやって発展していくかという事を、各産地は知恵絞って、頑張っていると思うんですけども、特に伊賀っていうのも産地の知名度は低いですし、小さな産地でもありますので、よそでは出来ないこの伊賀でしか取れない土の特徴を活かしたよそと差別化をはかってやっていこうという事で、私達どもは頑張っているんですけども。

その中で文化財の話っていうのは、先程の委員さんが言われたように、やっぱりその意味合いっていうのをしっかり付けないと。ただそれをもっと作って、与えただけであっても、伊賀全体の発展に繋がるとかそういった事が裏付けでないと駄目かなと個人的には思っています。

よく考えて、進まなきゃいけないかなと思っています。

## 教育委員

伊賀焼の方が、本当に魅力的だと思います。

焼き物については、私は素人なので焼き物の事はよく分からなかったですけれども、備前焼の方のいろんな方のお話を伺った時には、備前焼はもうピークを過ぎて、いい時はあったけれどというお話だったので、伊賀焼はこれからとだと思って帰って参りました。今、人がとか、焼き物としてのというお話してはたけれども、伊賀市全体として、この焼き物と忍者ですとか、先程もありましたが、全部ひっくるめて、伊賀というものの良さを、皆さんに知っていただく、そういう事に焼き物認定が繋がっていくようなスタンスであればこれはいいのではないのかなと思いました。

伊賀市全体の中の事として、捉えて進めていって行ってもらえばいいんじゃないのかなと思いました。

#### 教育委員

芸術に関してはうといのですけれども、備前焼と聞けば備前焼なんだというイメージで行かせていただいたのですけれども。先程から話が、出ているようにイメージとしては違う寂しい感じがありまして、美術館、提示館の所には沢山の方、作家さんが展示をされていたのですけれどもどれを見ても同じで、高い物を見ても凄い値段やなって、値段のリーズナブルなものを見てもあっ、備前焼なんだという感じでなんか寂しさを感じました。

やっぱり持った感じ伊賀焼の方が、温かいなというふうな温か味を感じる物なのでそれを活かした名前を売るのも大事ですし、この方の作品が欲しいなって思ってもらえるような伊賀焼の環境作りをしてもらいたいなと思いました。

#### 副教育長

今、委員さんに感想を言っていただきましたが、教育長さんいかがでしょうか。

#### 教育長

他の委員の方と同じように、昔ちょっと備前に行ったことがあって、この間も行かせていただいて、やっぱりそれを比べると同じ平日に行ったんですけれども、人の賑わいが全然違って、本当に閑散としてちょっと寂しい感じを備前さんに感じました。

それがなぜなのかっていうのは、具体的な所は僕もやっぱりわからないですけれども、やっぱり人のエネルギーが、お話を聞く方々皆さんからあまり感じられなかった事もやっぱり一つなのかなと。

そこにいらっしゃる方、携わっている方がやっぱり条例等を持って色々やらないと形だけあっても、中々続いていかない可能性があるなというふうに思ったのと、これから認定に向けて色々な事を考えていかないといけない、個人認定になると、これ委員になられた方は大変だろうなというふうに思いました。

なぜ、私を選ばないのだろう、という言葉ていうのが相当いろんな事を圧迫してくるだろうなと、勝手に思ったりして。

伊賀焼全体を認定する事は凄く良い事だと思っていて、そういう進み方を是非していき

たいなと思うんですが、本当にちょっと個人認定に向かう時のその注意というのが、凄い大変であって、それが1つのネックになるんじゃないかなというふうに思っている所ではあるんですけども。

やっぱり伊賀焼の事を考えると、良い環境を作って行きたいなと思いますので、皆様のご協力が多分必要かなと思っております。

副教育長

産業振興部長さんいかがでしょうか。

教育委員

伊賀って、結構皆さんユニークな方が沢山みえますし、人によって皆違いますし、そういう面ではさっき言っていただいたように、認定する事によってその人の作品が10年後、20年後に凄いなというものになるかなという所もあると思うんですけども、教育長さんが言われたように伊賀の全体としてというのも、一つのことなのかなというふうに思っています。

けどもその為には、伊賀の焼き物屋さんというのが皆でそれをやるんやていう所で、一致団結といいますかその辺の所もしっかり続けていかないと、後が続いていかないかなというふうな思いも持たせて頂きますので。

結構今もよそから入って来られて、伊賀焼を初めておられる方も最近も聞かせていただいきますし、そういう方もおらかな気持ちで取り入れて、伊賀焼も一つでやって行くんだっていうそういうような意識付けていけるのが増えていくと、伊賀焼全体でのそういう指定とか、そういう形もいいのかと思わせていただきます。

副教育長

委員さん方、他によろしいでしょうか。

最後に市長さんにまとめていただきますけれども。

市長

よくわからないですけども、伊賀焼って今は知りませんが、意外と我々は古伊賀焼、伊賀焼なんかでいうと、芭蕉もそうですけども、元永さんもそうだったし、伊賀焼も実はアバンギャルドなんですよね、その時代においては。だから、新しい時代を開いていくという事は、伊賀焼の一つのパワーだと思うんですけど、その伊賀焼って何をしているのか、古琵琶湖層の粘土を使うとか、ビードロが出ているとか、緋色があるとか、焦げがあるとか、という事があっても、形は別に僕はどうでもいいと思うんです。そんな中で、面白い物をそういう基本的なことを追ってやっていけばいいのかなと思って。

文化財指定とはちょっと関係のない話になるかも知れないですけど、そういう意味で見ていると、信楽焼って最近あまり大したことないですよ。昔は、若い子がいっぱい

い来ていて、活気があって面白い物をいっぱい作っていて、ケナリイなと思っていたんですけれども。今行くとそういう若い人達の発表の場やったりして、何かショールームみたいな所がなんかさびれてしまって閉じている所もあるし。何でやって知り合いに聞いたら、今、信楽では登り窯を焚けへんねんって。条例で、それでそういう伝統的な技法ではもうできないからって、ガス窯ばかりになってしまって。だから焼き物やりたいたいって人が来たら、その人は伊賀へ行っておいで伊賀やったら場所もあるし、薪たいてもなんでもかまへんさけ、そっちに行きと誘導してくれているんですって、そういう意味では、伊賀焼は、まだまだ我々が変な条例を作らない限り面白い物と違うのかなあと思うんです。だから、文化財って何よ、文化財指定って何よって、僕は分かりませんけれども、そんな中からヒントが、あるのかなと思ったりはします。

#### 教育委員

伊賀焼、焼き物自体をまず文化財に指定っていうのも1つの方法かもわかりませんね。

#### 市長

文化財課長さん、文化財の指定っていう事で、何が僕はあまりよく知らないのですが、何が課題として、認識をされているのですか？

#### 文化財課長

過去より文化財指定にしてください。というような陳情というような相談を、年々受けてきたという部分もあって、その中で議会の中でも、産業振興的な側面の中で、文化財指定保持者ってなると認定者のお店というような感じの看板にしているのもありまして。そういう活用を冠のような形でというようなイメージだったと思うんですけれども、そういう事があると、じゃあ、何を持って指定するのか、あるいは手続きはどうなかと。というような部分が、課題認識の中で委員もおっしゃったように、備前なんかですと、伝統的ないわゆる茶陶だけを文化財指定にするのではなくて、新しい作陶に取り組んでいる人も入れるように、というような備前の場合は指導があったと。

先ほどから言う通り委員がおっしゃってみえたのでそういう所は、指定基準の見えた部分があると。それと後、伝統工芸士さんとの線引きというのが経営の中でも違うということであったので、それはどう違うのかというのが疑問だったんですけれども、そこは線引きされているというのが今回の視察させていただいて、指定するにあたっての課題といえますか見えなかったところが、分かったかなという思いがありました。

それから、先程教育長さんがおっしゃったように、あいつは指定して俺は指定してもらえないという話があるからそうしたら大変だ。という事をおっしゃたんですが、備前においてもどなたを候補者にするのかは、基本は非公開、選定する委員も非公開という事で、候補者を選定される。というふうには伺っておりますので、そう部分選定にあたっては、システムとしては非常に有用というか、勉強になったかなと感じております。

#### 副教育長

今日はもう時間が来てしまいましたので、今日は課題を出していただいて、今後どうしていくかという事を協議しながら進めていきたいと思っています。

伊賀焼の振興の面と、それを指定していくかどうかという課題の2つの課題があったと思いますので、そういったところで協議をしていきたいと思っております。

今日本当に、時間を2つの話題を取っていただきまして、忙しい中ありがとうございました。

最後にその他の項ですが皆さんどうですか。

#### 企画振興部

この総合教育会議なんですけれども、市長が召集する事となっているんですが、事務局が教育委員会を持っていただいて。その教育会議に市長が召集していただく中では、それぞれの部、部長もそれぞれ出てきていますので、教育委員会でそれぞれ部の施策として、教育委員の皆さん方にもお話を聞きたい。そういう事が反映出来るように、事前にこの会議に何か部として掛ける案件が、相談する案件がございませんか。みたいな事もちょっと事務局から聞いていただけたらと思います。

例えば、ソサエティ5.0、次、情報化社会が終わって次は、IO10TのIT社会が、来るってような流れの中で、じゃあ教育の中でITの推進、IT教育の推進なんかも、どう図っていくんだ。将来教育委員会さんとして、そういうところをどういうふうにお考えいただいているのか、とかいうような事を聞かせて頂いたりとか、いう事が非常に大事になってくるのかなというふうに思いますので、是非、事前にこう案件、掛けたい案件とかの紹介とか何かをそれぞれの部にしていただけたら、ありがたいかなというふうに思いました。

#### 副教育長

教育委員会の方で考えることで、消極的に進めて来たんですが、部長さんも来ていただくという事で、広めさせていただいて、今後させていただきたいと思っております。

最後に市長さんよろしいでしょうか。

#### 市長

結構です。

#### 副教育長

ありがとうございました。